

平成8年6月20日 第三種郵便物認可 毎月1回1日発行 月刊介護保険 第15巻第168号 平成22年2月1日発行 株式会社 法研

介護に携わる人の情報誌

No.168

月刊

介護保険

2010

2



【特集】

リハビリテーション徹底検証

— 医療と介護の架け橋になれるか —

フォトレポート

外出の強い味方「トラベルヘルパー」

— そのワザと工夫に迫る —



JR原宿駅に到着。一般乗客を止めて、エスカレーターを車いす用に変形させて動かす。こんなことができるなんて、まったく知らなかった。



電車内では、とにかく車いすをしっかり固定することが大事。



JR渋谷駅で切符を購入。トラベルヘルパーが切符を買うことになるので、車いすを止めておく場所や、領収書のもらい方など、気をつかうポイントはいろいろある。



事前に乗車予定を駅側に伝えておくと、乗降駅で駅員がスロープをセットしてくれる。



駅の改札を出て、いよいよ明治神宮へ。

外出の介助に必要な 智恵と工夫を学ぶ

トラベルヘルパーの仕事とは、どういったものなのか。11月下旬に東京都渋谷区で、トラベルヘルパーを対象に行われた「砂利道＆人混み！車いす研修」に同行取材した。

コースは、東京・渋谷にある協会事務局から渋谷駅まで車いすで移動、JRで渋谷駅から原宿駅まで電車で移動し、明治神宮の参道の砂利道を車いすで往復するのが午前の部。午後の部は、車いすでJR原宿駅から若者で混み合った竹下通りを抜け、表参道を経由して、東京メトロ表参道駅まで行つて、同じく渋谷駅まで地下鉄で移動して、渋谷駅から



理事長の
篠塚恭一さん

含めた『旅』が高齢者の心身のケアとして有効な手段であることが証明されるようになってきました。われわれとしては、介護旅行をシステム化して、一人でも多くの方に、新しいスタイルの旅や外出を体験していただきたいのです」と今後の展望を語る。

トラベルヘルパー 砂利道＆人混み！ 車いす研修に密着取材

渋谷→原宿（車いす＆JR利用）



東京都渋谷区の道玄坂上にある日本トラベルヘルパー協会事務局を総勢17人で出発。ビルの入口にはいきなり大きな段差がある。



渋谷マークシティ内を通ってJR渋谷駅へ。



「トラベルヘルパー」（外出支援専門員）とは、介護技術を身に付けた外出支援や旅の専門家のことで。健康新規以上や介護福祉士などの介護関係資格をもつた人が多い。

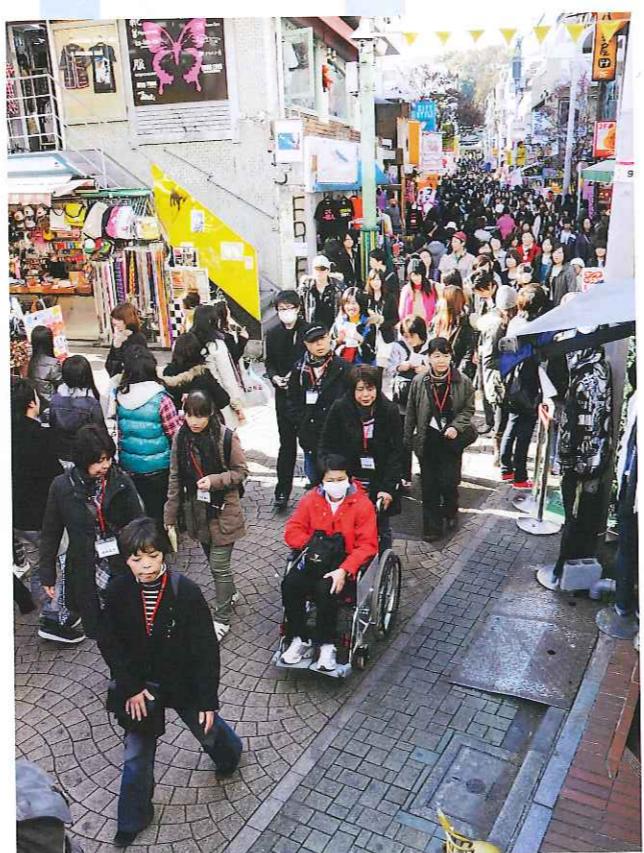
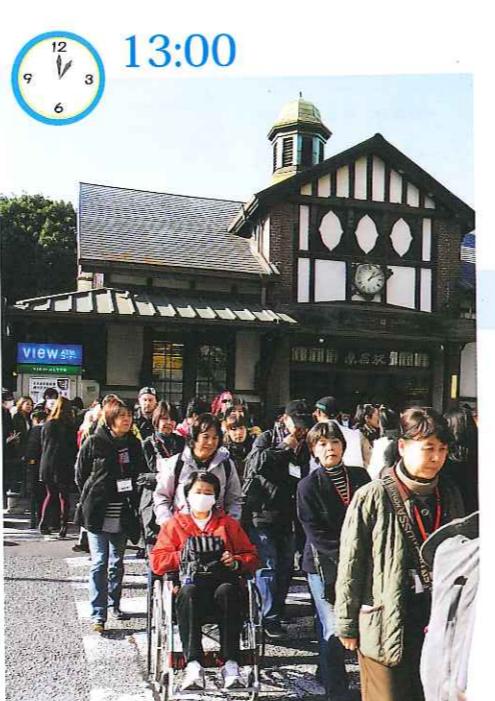
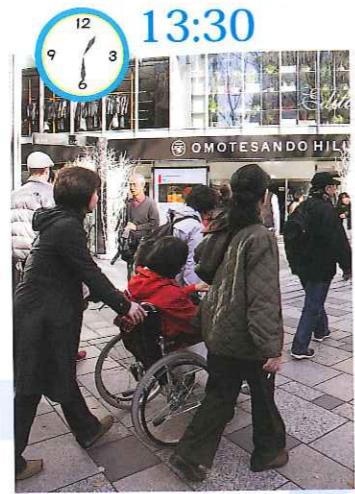
平成18年4月に内閣府の認証を受けたNPO法人日本トラベルヘルパー協会（理事長：篠塚恭一氏）では、トラベルヘルパーの育成と「介護旅行システム」の全国整備や旅のユニバーサル化に取り組んでいる。平成22年1月には協会認定資格制度がスタートしたばかり。

同協会の篠塚理事長は、トラベルヘルパーについて、「もともと一般旅行業の経験から、いわゆる介護旅行（ケアサービス付き旅行）に取り組んできました。高齢化が進むなか、介護資格をもつた専門スタッフが、旅行同行して身のまわりのお世話や旅行案内をするという新しい旅のスタイルを提案したいと考えています」と説明する。

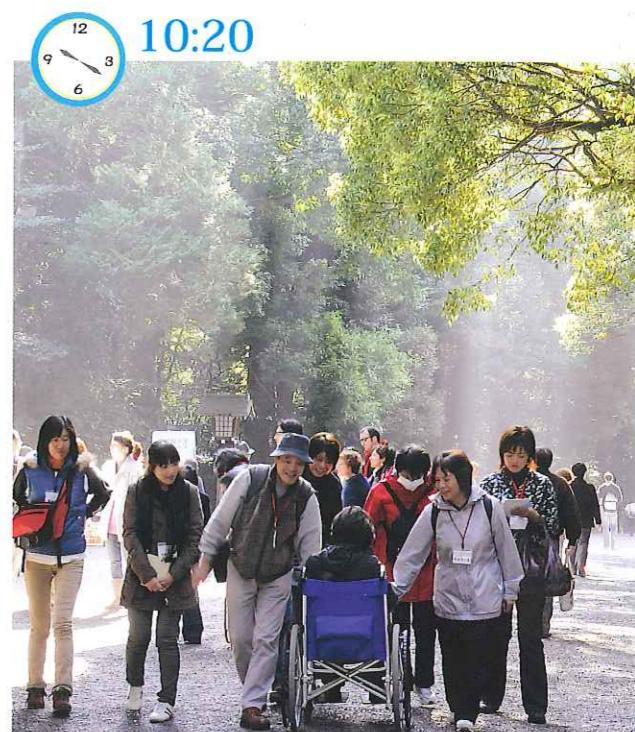
高齢者やその家族が旅行に行きたいういう気持ちが強いことは知られている。「しかし、そのうち多くの方は『やはり無理』と諦めてきたのが現実だと思います。しかし、外出を

Photo Report

原宿・竹下通り→表参道→渋谷（車いす＆地下鉄）



原宿↔明治神宮（車いすで砂利道と石段を行く）



NPO 法人 日本トラベルヘルパー協会

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-19-13 トップビル10F
TEL. 03-6415-6483
【HP】<http://www.travelhelper.jp>
【E-mail】tokyo@travelhelper.jp

協会事務局まで車いすで戻ってくるコース。研修の目的は、砂利道や人混み、JRや地下鉄などの公共交通機関の乗り降りを、安全かつスムーズに案内するためのノウハウを学ぶことにあります。参道の砂利道では、いかに車いすが押しにくいものなのかを体験するとともに、乗り心地も悪いことを知る。また、人混みのなかでは、前を歩く人や、気づかず近くしてくる人に声をかけることで事故防止をするなど、きめ細かい配慮の必要性を学ぶ。車いすで電車を乗り降りする場合には、駅に事前に連絡しておくと乗降駅の駅員が入口・出口を用意して待っていてくれることや、車いすから手を離すときには、必ずブレーキをかけておくなど、すぐに実践で活用できる智恵と工夫を学ぶ。研修参加者たちも熱心にメモをとり、わからないことは積極的に質問していた。

かつて介護現場の外出支援は、介護保険のなかでもタブー視された観があった。しかし、よく考えれば、要介護状態であろうとなかろうと、「外に出たい」「外を見たい」というのは、誰もが感じる日常生活上の普通の思い。そんな願いがかなえられる全国的なシステムが一日も早く普及することを願いたい。